

[通常機体] ソー G 「SEED-MSV」

ソードカラミティ初号機

機体名	ソードカラミティ初号機	画像
型式番号	GAT-X133-01	
英語名	SWORD CALAMITY - 01	
所属	地球連合軍	
パイロット	レナ・イメリア	
装甲材質		
装備	対艦刀シュベルトゲベール×2 マイダスメッサー×2 パンツァーアイゼンアーマーシュナイダー	
作品名	SEED-MSV	
参考書籍	ホビージャパン 2004 年 10 月号	

内容

GAT-X133 ソードカラミティは白兵戦に特化した機体である。

開発ベース機は、GAT-X131 カラミティであり、初号機はカラミティそのものを改造する形で完成をみた。

そのため初号機のみ、改修された装備以外は、カラミティそのままのカラーになっている。

この特殊なカラーの機体は、初号機のみのものである。

ちなみにソードカラミティの正式採用カラーは、赤を基本としたものであり、データ上のシミュレーション機もこのカラーで表現されている。

(余談となるが、終戦後に公開され、一般的に広く知られるようになった GAT-X105 ストライクとソードカラミティとの交戦映像は、シミュレーション上に再現されたものであり、実機映像ではない。)

初号機は、各種データの収集を目的として製作されて、その目的を果たした後は、リビルド 1415 プログラムに従い、他の装備へと改修される予定であった。

(そのため、ソードカラミティの正式カラーである赤へと塗り替えられることがなかった。)

だが、戦局の推移に従い連合内の万能機の開発ベースは、GAT-01A1 ダガー(通称 105 ダガー)を基本とした計画へ移行することになる。

結果、ソードカラミティ初号機は、データを収集した後もそのままの装備で、デトロイドの国防連合企業体工場で保管されることになる。

ソードカラミティは、最終的に3機がロールアウトし、初号機をのぞく2機は、ビクトリア基地奪還作戦に参加。

この戦いで2号機は「切り裂きエド」ことエドワード・ハレルソンの愛機として名をはせることになる。

また、同作戦でフォー・ソキウスが操縦した3号機は、のちにパイロットごと、オーブ、サハク家へと譲渡されている。なお、保管されていた初号機は終戦後に地球軍を脱走したエドワード・ハレルソン討伐の為、「乱れ桜」の二つ名を持つエースパイロット、レナ・イメリアが使用、エドの二号機と交戦の末に中破した。

後にプロのMSパイロットであるカイト・マディガンに回収され、カイトのMSコレクションの一機になっている。

機体データ

備考

スペック

項目	内容
全高	
頭頂高	
全長	
本体重量	
全備重量	
ジェネレーター出力	
スラスター推力	
センサ有効半径	